

# 森里海連環と地球的課題

**日時** 2010年 9月24日(金) 13時～ 26日(日) 17時30分

**場所** (財)国際高等研究所ホール (けいはんな学研都市)



## プログラム1 講演 9月24日(金)

13:00～13:10

開会挨拶

田中 克 (財団法人国際高等研究所・前京都大学フィールド科学教育研究センター長)

13:10～14:20

講演Ⅰ「森里海連環から描く日本のグランドデザイン」

畠山 重篤 (カキ養殖漁師・京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授)

14:20～15:00

講演Ⅱ「森里海連環学とアジア」

田中 克 (マレーシアサバ大学持続農学部客員教授)

15:00～15:40

講演Ⅲ「変動帯の文化」

尾池 和夫 (財団法人国際高等研究所長)

15:40～16:40

美山の自然と尺八

ウベ・ワルター (京都府美山町在住音楽家)

16:40～17:30

講演者とフロアとの対話

## プログラム2 研究発表 9月25日(土)

〈セッション1〉

生き物の移動から見える森と海のつながり

〈セッション2〉

事例研究

## プログラム2 研究発表 9月26日(日)

〈セッション3〉

鉄は地球を救うか？

〈セッション4〉

人類存続への展望

主催 ▶ 京都大学フィールド科学教育研究センター・NPO法人ものづくり生命文明機構・国際日本文化研究センター安田研究室・  
総合地球環境学研究所山野河海イニシアチブ・財団法人国際高等研究所

後援 ▶ NPO法人森は海の恋人・海洋政策研究財団・京都新聞社・毎日新聞社・朝日新聞社・読売新聞社・産業経済新聞社・日本経済新聞社  
日刊工業新聞社・グリーンテレビ・京都府・京都モデルフォレスト協会・京都府教育委員会・京都市教育委員会



## プログラム2 研究発表 9月25日㊦

### 〈セッション1〉 (司会 山下 洋) 生き物の移動から見える森と海のつながり

9:30~10:00

北の海と森を結ぶサケ-知床世界自然遺産地域におけるサケ属魚類の河川遡上動態と陸域生態系への物質輸送を例に  
帰山 雅秀・上田 宏 (北海道大学大学院水産学研究所)

10:00~10:30

海と川と森を結ぶアユ  
谷口 順彦 (福山大学生命理工学部)

10:30~10:50 休憩

10:50~11:20

山が海の稚魚を育む-有明海からのメッセージ  
中山 耕至・田中 克 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

11:20~11:50

若狭湾由良川河口域におけるスズキ稚魚の生態  
富士 泰期・笠井 亮秀 (京都大学大学院農学研究科)

11:50~13:00 昼食

### 〈セッション2〉 (司会 吉岡 崇仁) 事例研究

13:00~13:30

魚類の“ゆりかご”としての藻場機能の広域的解析  
小路 淳 (広島大学大学院生物圏科学研究科)

13:30~14:00

小浜湾の多毛類による陸域起源物質の利用  
富永 修 (福井県立大学海洋生物資源学部)

14:00~14:30

厚岸湖の生物生産に見る森里海連環  
向井 宏 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

14:30~14:50 休憩

14:50~15:20

由良川をモデルにした森里海連環研究-I  
吉岡 崇仁 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

15:20~15:50

由良川をモデルにした森里海連環研究-II  
山下 洋 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

15:50~16:20

合成化学物資から見た陸と海のつながり  
川合真一郎 (甲子園大学栄養学部)

16:20~16:50

地下水から読む森と海のつながり  
谷口 真人 (総合地球環境学研究所)

19:00~21:00 懇親会 (ホテル京阪京都)

## プログラム2 研究発表 9月26日㊧

### 〈セッション3〉 (司会 吉永 郁生) 鉄は地球を救うか？

9:30~10:00

巨大魚附林：アムール川流域起源の鉄が養う親潮の基礎生産  
白岩 孝行 (北海道大学低温科学研究所)

10:00~10:30

植物プランクトンと鉄  
内藤佳奈子 (広島県立大学生命環境学部)

10:30~11:00

微生物にとって鉄の存在  
吉永 郁生 (京都大学大学院農学研究科)

11:00~11:20 休憩

11:20~11:50

鉄鋼スラグと腐植物質による藻場造成  
山本 光夫・篠上 雄彦 (東京大学教養学部・新日本製鉄株式会社)

11:50~12:20

魚類群集の潜水観察から探る沿岸再生の好機  
益田 玲爾 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

12:20~13:00 昼食

### 〈セッション4〉 (司会 中井徳太郎) 人類存続への展望

13:00~13:30

年稿分析による自然と文明の変遷に学ぶ  
安田 喜憲 (国際日本文化研究センター)

13:30~14:00

バリ島の水と祭りの叡智に学ぶ  
河合 徳枝・大橋 力 (早稲田大学・国際科学振興財団)

14:00~14:30

心と体をいやす熱帯雨林のカー知覚限界を超える環境高周波の効果  
仁科 工ミ・大橋 力 (放送大学・国際科学振興財団)

14:30~15:00

生物多様性の意義を探る-鹿の増大が及ぼす影響を例に  
藤崎 憲治 (京都大学大学院農学研究科)

15:00~15:20 休憩

15:20~15:50

アジアの伝統的農業に見る森里海連環と持続可能性  
佐藤 雅志 (東北大学大学院生命科学研究所)

15:50~16:20

森里海連環と環境経済  
植田 和弘 (京都大学大学院地球環境学堂)

16:20~16:50

森里海連環と生涯教育  
前平 泰志 (京都大学大学院教育学研究科)

16:50~17:20

森里海(連環)基本法の制定に向けて  
中井徳太郎 (財務省理財局)

17:20~17:30

閉会挨拶  
安田 喜憲 (国際日本文化研究センター・NPO法人ものづくり生命文明機構)

会場へのアクセスの詳細は  
<http://www.iias.or.jp/access/access.html> を参照下さい。

問い合わせ：京都大学フィールド科学教育研究センター  
企画情報室 (電話 075-753-6420)